

–10-year project in Asakusa –

text_omori

そのような活動を主に浅草六区で行っていたのですが、次に声をかけてくれたのは、言問通りより北の観音裏と呼ばれる地区で一葉桜の植樹運動を展開し、地元振興会を立ち上げたようとしていた象潟町会長の細川清さんでした(2007年)。ここから、観音裏、そして今に続く「奥浅草」(細川さんら地元の町会長さん達と私達とで取り組んだ勉強会で発案)での活動が始まったのです。

今年度で東大としては活動を終えるという事を、光月町のおじいさん達に伝える時は、つらいものがありました。しかし、長老格の細川銘木店会長が「私たちは自分達でやっていけるように独り立ちしないとイケない、これも東大さんの親心だよ」と仰ってくれた時、江戸っ子の「粹」を感じました。奥浅草は都市空間としても魅力的ですが、何よりも関わって下さる方々が皆個性的です。中島先生は慶応大学のゼミ生と引き続き奥浅草での活動を続けられるとのことで、大森としては個人的に参加したいと思います。

プロジェクト着実に進行中

Projects have advanced steadily

佐原プロジェクトでは震災からの復興をテーマに建物公開と合わせたパネル展示が行われました。神楽坂プロジェクトはシンポジウム、高山プロジェクトは住民ワークショップ。年末も研究室は大忙しです。

佐原 SAWARA-project
プロジェクト

— 「佐原の原動力展」開催 —

香取市佐原では、12月3日(土)・4日(日)に「佐原の町並み建物特別公開」が開催され、佐原PJチームも、このイベントに合わせて、「佐原の原動力展」と題したパネル展示を行いました。これは、東日本大震災から200日以上が経過した佐原の現状に着目し、被災後の地域の助け合いや、被災後の断水時に役立った井戸の分布や活用実態の調査結果をまとめたものです。8月に開催した「底力展」で好評だった特大航空写真や、震災後の新聞記事を時系列に並べたパネルなども追加調査を踏まえて展示しました。展示会場としてお借りしたのは、土屋家主屋という景観保存地区内にある江戸時代後期に建てられた建物で、明治25年の大火を逃れて現存する、佐原でも数少ない貴重な建物です。建物公開は佐原の重伝建地区および景観保存地区の歴史的建造物の内部を公開するイベントだったため、地

元や近隣の方のほかに、初めて佐原を訪れたという方も見られました。その多くが、損傷を受けた建物や崩れた護岸などの被害状況を目の当たりにして驚かされていたようです。震災に関する記憶を途切れさせないためにも、被害の実態や復興へ向かう過程について記録することの重要性を再認識しました。

また、地元の方にも足を運んでいただき、お話を伺う中で、震災が地域のつながりや観光のあり方を再考するきっかけになったという声が多く聞かれ、そういった小さな意識の変化や気づきが地域の中に芽生えていることを念頭に置いて活動していきたいと強く感じました。今後は、震災以前から取り組んできたまちの回遊性向上について引き続き考えていくと同時に、古い町並みを中心とした佐原の魅力・可能性を整理・再発見し、提案に繋げるべく、新たな調査を行っていく予定です。

M1 安東 政晃



▲パネル展示風景



▲江戸時代築造の土屋家主家

神楽坂 KAGURAZAKA-project
プロジェクト

M1 仲村 貴文

10月29日(土)に「国登録文化財とまちづくりシンポジウム」が開催され、神楽坂の現状とまちづくり活動における登録文化財の活用の仕方について、メンバーの神原と吉田が発表しました。その後、発表を踏まえたパネルディスカッションでは来場者も含め活発な議論がなされ、神楽坂を熱く語る一日となりました。そして11月15日(火)の第4回勉強会では、松井が「文化財を生み出すまちの力」というテーマで花街と文化財の関係について発表しました。花街の影響を受けた文化的景観が残る神楽坂で、開発による変化とどう向き合っていけば良いかという問いは、様々な議論を呼び起こしました。花街を意識し独自にアレンジした黒壁などは、果たして景観として適合するのかなど、なかなか内容の深い勉強会となりました。その内容を踏まえ、1月24日(木)に最後の勉強会として登録文化財の在り方についてのワークショップを行う予定です。



▲花街建築の分布を述べるD3 松井 ▲登録文化財について発表する吉田・神原

高山 TAKAYAMA-project
プロジェクト

建築学専攻 伊藤研究室 八賀 俊一郎

11月24日(木)からの3日間にわたり、高山市長倉集落でWSを行いました。WSでは高山PJチームが今までにまとめた調査内容を発表し、地域の方々と集落の魅力や資源、課題などを発見し共有するとともに、それらを踏まえて今後の集落のマネジメント計画の方向性を検討しました。具体的には課題を解決し資源を生かすためのアイデアを数十枚の「アイデアカード」にまとめ、地域の方々に実行したいと思うものに投票してもらうという形で議論を進めました。今回のWSを踏まえてどのような計画をどのように実行すべきかを考え、地域の方々と実際に行動にうつしていくことが今後の活動の主軸となります。

今までに春、夏と長倉集落を訪問し、今回は秋の訪問でした。訪れるたびに四季折々の素晴らしい景観を我々に提示してくれる、また一つ長倉集落の魅力に気付かされることとなった訪問でした。



▲アイデアWSの様子



▲秋の棚田と焼岳を望む

Information

1月の予定

12月27～1月7日 ルンビニPJ現地調査
1月20日 第14回研究室会議
1月21～22日 大槌PJ現地調査

✦ 編集後記

大森 文彦

今号は自分が関わった浅草PJを全面に推し、一面の基調も浅草PJのロゴである一葉桜にちなみ、ピンク色にしました。それほど浅草に惚れ込んでしまった大森です。さて、都市デザイン研究室に来てからは、本当に学ぶことが多く、また様々な経験を積むことができ、周囲の皆様には感謝しても足りないくらいです。先生方には深い洞察を、先輩方には多くの先見を授けていただきました。学部生時代とは比べものにならない、本当に充実した2011年でした。ありがとうございました。